

第79回明石市環境審議会 議事概要

令和5年10月30日（月曜日）13時30分～15時30分
明石市役所議会棟2階 第2委員会室
出席委員：15名

◇諮問

「生物多様性あかし戦略」の改定について
審議会の開催に先立ち、丸谷市長から環境審議会小幡会長へ諮問を行った。

【議事1】「生物多様性あかし戦略」の改定について

○事務局より説明（資料1）

本市では、2011年3月に生物多様性あかし戦略を策定し、希少種の保護や外来生物対策等の生物多様性の保全に係る政策を実施している。戦略の策定から12年が経過し、また2023年3月には、国の生物多様性国家戦略が改定されたことを踏まえ、国家戦略との整合性を図るとともに、本市の自然環境の将来像や目標の設定を行うため、生物多様性あかし戦略の改定を行う。なお、審議は、環境審議会自然環境部会で行う。

また、より専門的な見地から意見をいただくため、新たに5名の関係者として当部会に参画いただく。

●環境審議会自然環境部会会長

国の生物多様性国家戦略は、健全な自然環境が社会経済を支えているというネイチャーポジティブの考えが基礎にある。その実現には、市民・企業の参画が重要になるため、改定にはその視点を反映させていきたい。

質疑：特になし

【議事2】明石市一般廃棄物処理基本計画(案)について

○事務局より説明（資料2）

海洋プラスチック問題への注目の高まり、世界的な地球温暖化問題などを踏まえ、令和4年に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が施行された。本市においては、同法の施行を受け、令和12年度の供用開始予定の新ごみ処理施設を全プラの分別にも対応した施設にすると明記しており、プ

ラスチック類等の再資源化に向け、新ごみ処理施設の稼働とあわせた分別方法の見直しを行い、処理方式、分別収集方法等について検討するため、計画の変更を行う。

<主な質疑>

(委員) 今回の改正箇所ではないが、プラスチック資源循環戦略のところで、プラスチックは、金属等の他素材と比べて「有効利用」される割合が低いとあるが、有効利用より再生利用と書いた方が正確ではないか。

(事務局) この部分は、国のプラスチック資源循環戦略の文言にあわせて、「有効利用」と記載している。

【議事3】 明石市環境レポート2023（案）について

○事務局より説明（資料3）

【2022年度からの主な更新点】

・表紙の写真にしたデンジソウは、除草剤の影響などで数が激減し、国では絶滅危惧種に登録されている。市内では、街中の農地に生息が確認されている。

・2050年カーボンニュートラルに向けて、環境省が推進している『デコ活』という取組を紹介している。これは、「脱炭素」に向け、具体的な取組方法を『デコ活アクション』として提示したり、自ら実践している取組を発信する場を設けることで、ライフスタイルの変革を後押しするような内容となっている。

・今年7月に改定した『明石市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）』の内容に更新するとともに、今回から太陽光発電設備導入量の目標値を記載している。

・明石市内の温室効果ガス排出量を最新の2020年度のデータに更新している。2020年度の排出量は162万3,146トンであり、基準年度からは8.5%減少しているものの、2019年度よりは増加している。増加した理由は、電力のCO₂排出係数が増加したことが主な原因と考えられる。また、民生部門（家庭系）の大幅な増加は、感染症対策に伴う在宅勤務などで、電力・都市ガス使用量が増えたことも原因として考えられる。

市の事務事業から発生する温室効果ガスは、2022年度は7万6,836トンとなり、2021年度より減少している。減少した理由は、学校やコミュニティセンターなどの施設の照明を全てLEDに更新したことや、庁内の節電対策による電力使用量の減少

が大きな原因と考えられる。

・温室効果ガス排出実質ゼロに向けた取組みとして、2022 年度からは太陽光発電設備、高断熱窓、ZEH について追加で補助を実施した。

さらに、昨年度は『公共施設における再生可能エネルギー導入可能性調査』を実施し、公共施設の 33 施設 56 棟について、太陽光発電設備の導入ができることを確認した。

<主な質疑>

(委員) 裏表紙のデンジソウ説明文について、説明文でいくつか分かりにくい表現があるため、修正してほしい。また、なぜ保全活動をはじめたのか、背景も書いてほしい。

(事務局) 修正を検討する。

(委員) 5ページ目の公共施設における再生可能エネルギー導入可能性調査で、『公共施設 33 施設 56 棟』とあるが、分母を記載したほうがいい。

(委員) どれぐらいのkw数が導入できるのかまで記載したほうがいい。

(事務局) 詳細な数値を確認して、修正を検討する。

(委員) 同ページにマイボトルを配布したと記載しているが、安易にノベルティを配ることはしないでほしい。ごみを増やすことになる。使ってもらうための意識づけが重要。

(事務局) あくまで実施した事実を記載しているだけである。いただいた意見は今後の取組の参考とさせていただきます。

(委員) 12ページ目の水質汚濁の部分で、最近、新聞でよく目にする PFOS・PFOA の情報を入れるべきではないか。市民が毎日使う水のことだから、きちんと市としての考えを記載すべきである。

(事務局) PFOS・PFOA に関しては、水道局が窓口となっているため、環境部門から回答はできかねる。なお、本市水道局が定期的に水道水を測定しており、PFOS・PFOA の測定結果を公表している。また、本件に関して、明石市ホームページの水道

局のページに『水道水の安全性について』という項目があり、その中で、PFOS・PFOA の暫定目標値をクリアしていることを公表している。加えて、環境部門でも、明石市域の明石川で独自調査を実施しており、指針値を下回っていることを確認している。

(委員) 神戸市では 2020 年度から明石川での測定値のデータを公表しているが、基準値の4倍だった。明石市では、基準をクリアしていると言われても、データを公表してもらわないと納得できない。下流では、魚を釣る人もいる。

(委員) 明石市域で基準がクリアされているのは、単純に希釈されているだけではないか。市民は常に危険にさらされている。

(委員) こちらは神戸市、こちらは明石市ではなく、環境は全てつながっている。情報を公開することで、市民に安心してもらいたい。記載がないと何か隠しているのかと思われる。

(委員) この件は、非常に大きな問題だと思っている。記載した方がいいと思う。

(委員) 環境レポートに一切出てこないのは不信感がある。

(委員) 明石川で定期的に測定しているのであれば、記載してほしい。

(事務局) 環境レポートに追記するかどうかも含めて検討する。